

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 23 年 11 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 11 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）

噴気活動は低調に経過し、白色の噴気が時々観測される程度（最高高度は 50m）でした。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は 13 回（10 月：8 回）と少ない状態で経過しました。震源はこれまでと同様に主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

火山性微動は 2006 年 11 月以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 雲仙岳 噴気の状況（赤丸）（11 月 4 日、野岳遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 12 月分）は平成 24 年 1 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、九州大学及び長崎県を經由した九州地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

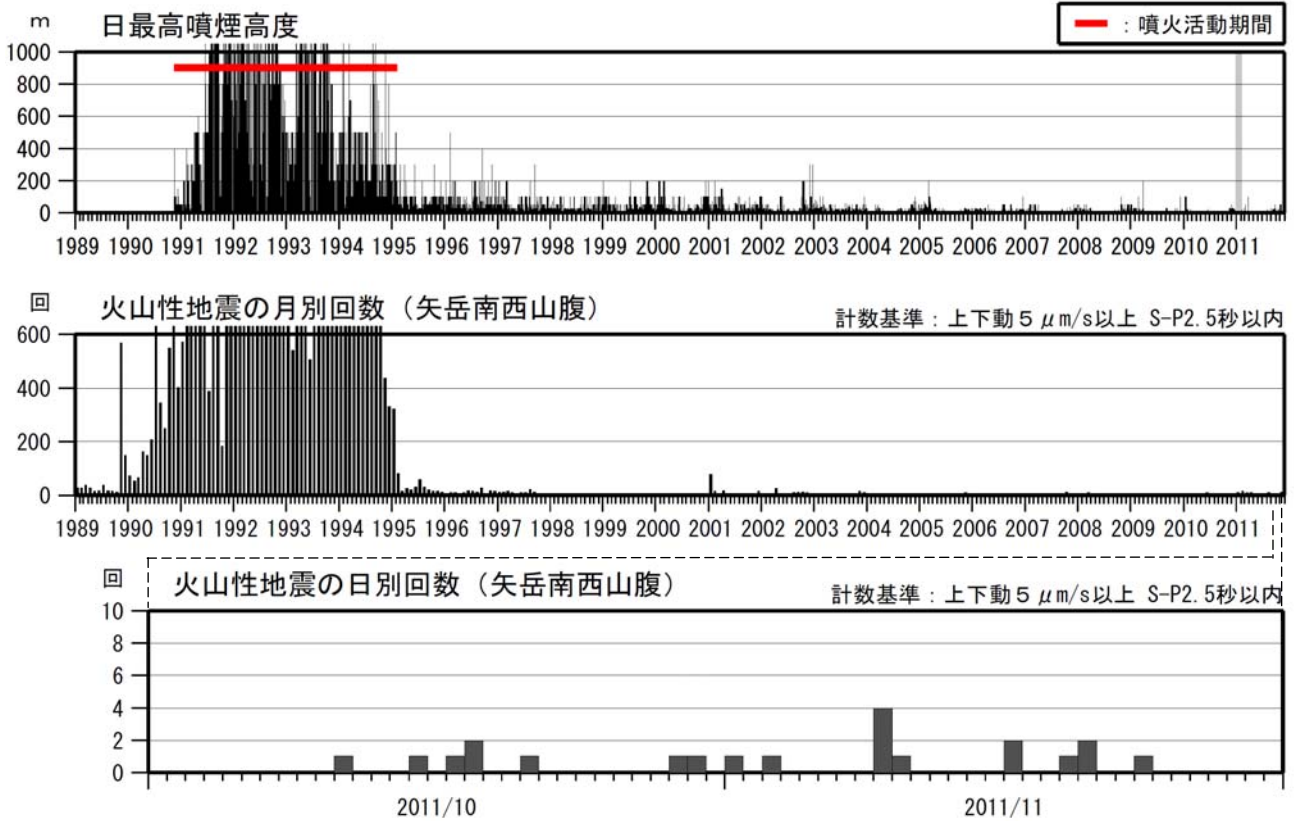


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2011年11月）

噴気活動、地震活動ともに静穏な状態で経過しています。

<11月の状況>

- ・噴気活動は低調に経過しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。

灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測。

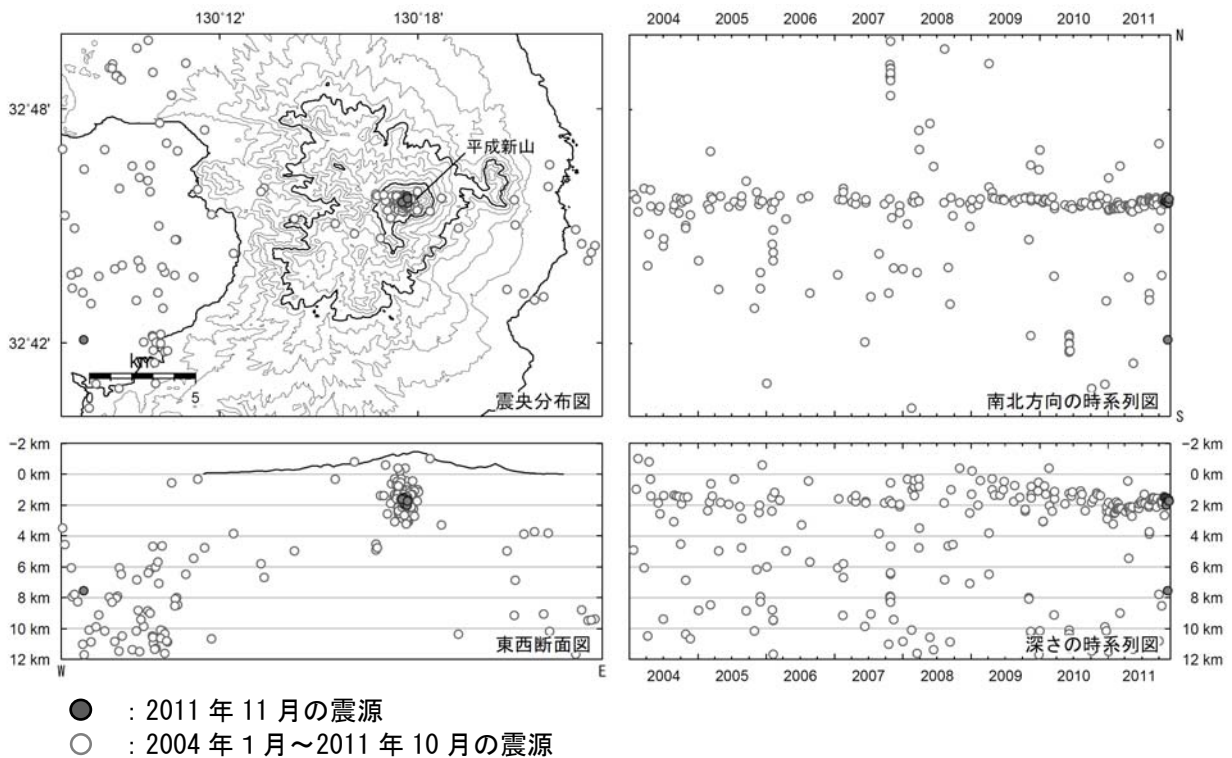


図3※ 雲仙岳 震源分布図（2004年1月～2011年11月）

<11月の状況>

火山性地震の震源はこれまでと同様に主に平成新山直下の浅いところに分布しました。

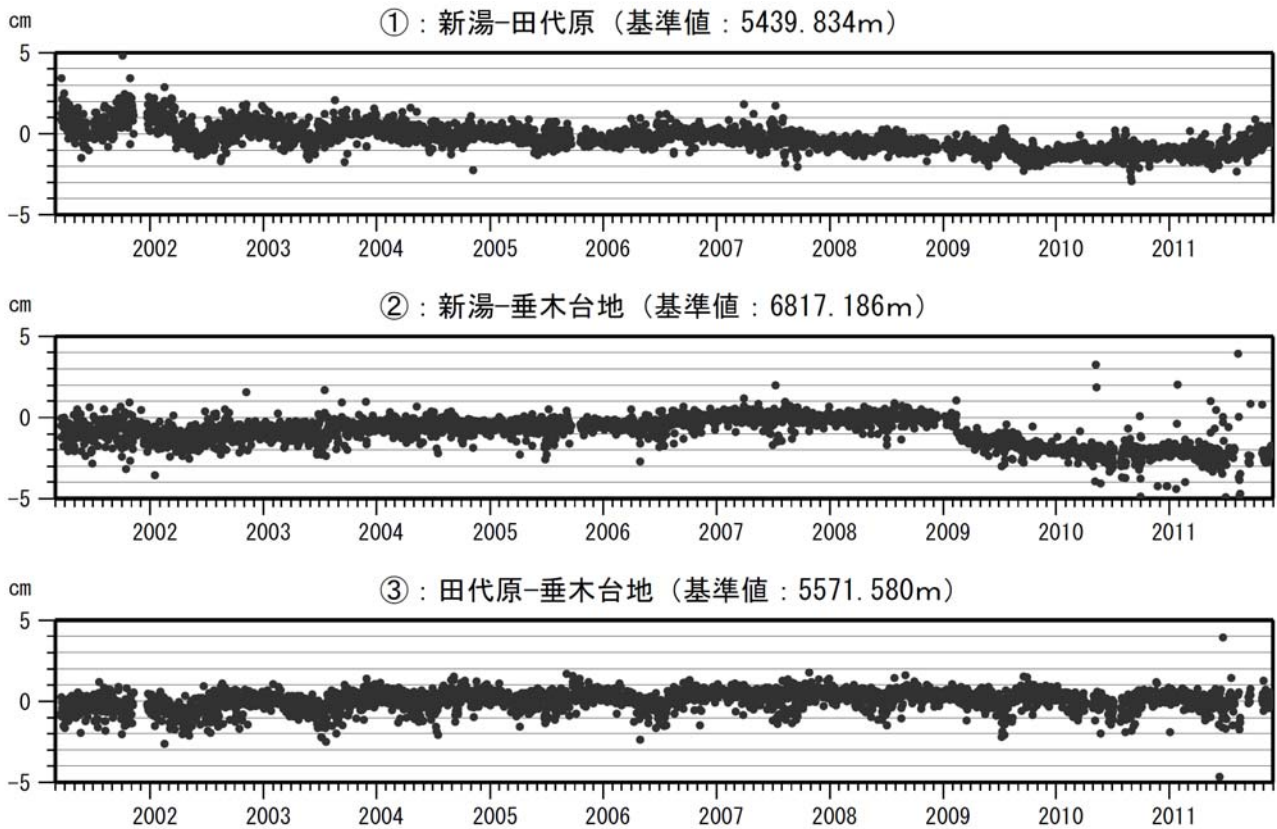


図4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年3月～2011年11月）

<11月の状況>

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図5の①～③に対応しています。

①、②の基線にみられる2009年2月の変化は、雲仙岳観測所の庁舎解体に伴う変動と考えられます。

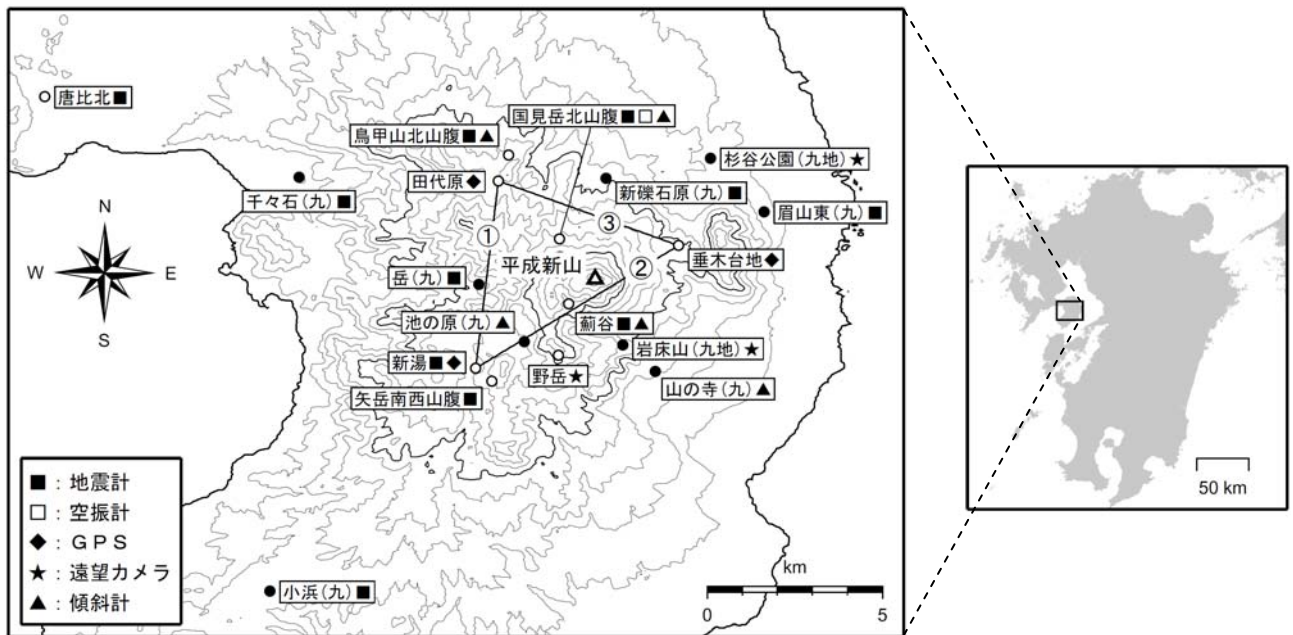


図5 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。

(九地)：九州地方整備局、(九)：九州大学